

研究課題：大学生トップアスリートのキャリア形成に関する縦断的研究
－男子レスリング競技者を対象として－

研究代表者：清水聖志人

本研究の目的は、大学における高度な競技活動を通じたライフスキル獲得レベルの経時的変化を、4時点の縦断調査を通じて明らかにすることであった。高校生年代において優秀な競技成績を収め、2011年4月に大学に入学した男子レスリング競技者31名（平均年齢 18.2 ± 0.4 歳、競技継続平均年数 7.1 ± 4.1 歳）に対して、アスリートにおけるライフスキルを10側面（ストレスマネジメント、目標設定、考える力、感謝する心、コミュニケーション、礼儀・マナー、最善の努力、責任ある行動、謙虚な心、体調管理）から評価することができる大学生アスリート用ライフスキル評価尺度（島本ほか、印刷中）を、2011年の春期と秋期、2012年、春期、秋期の4時点にわたり実施し、分析にはすべての調査に不備なく回答した26名を対象とした（継続回答率83.9%）。そして、ライフスキルの獲得10側面の平均値に関して経時的変化について検討を行った。その結果、初回調査から4回目調査にまで段階的に、ライフスキルの獲得レベルが向上していることが示唆された。また、ライフスキル側面をBonferroni法による多重比較を行った結果、に検討した結果、「目標設定」と「礼儀、マナー」において有意差が認められた。両側面とも初回調査から4回目調査にかけて獲得レベルが有意に向上していることが明らかにされた。結果として、大学入学後、一年半にわたる縦断調査から男子レスリング競技者においては、大学での高度な競技活動に適応していく過程で、「目標設定」や「礼儀、マナー」というライフスキルが獲得されていくことが示された。